

1.0.1 フィールドと入力レベル

1.0.1A〔フィールド定義〕

目録システムにおいては、それぞれのフィールド(及びデータ要素)ごとに、属性、フィールド長及び繰り返し数が定義されている。

それぞれのフィールド(及びデータ要素)においては、データ記入は、フィールド定義の範囲内で自由に行うことができる。

ただし、実際に当該フィールド(及びデータ要素)にデータ記入を行うかどうかは、それぞれのフィールド(及びデータ要素)の入力レベルによって異なる。

1.0.1B〔属性〕

フィールド(及びデータ要素)の属性は、次の2種類に分けられる。

- 1) 固定長(固定長フィールド)
- 2) 可変長(可変長フィールド)

固定長のフィールド(及びデータ要素)においては、データ長(記録されるデータの長さ)は、常に一定である。

すなわち、当該フィールド(及びデータ要素)においては、規定の長さには達しなかったり、又は規定の長さを越えるデータを記入することは不可能である。

可変長のフィールド(及びデータ要素)においては、データ長は不定である。

すなわち、当該フィールド(及びデータ要素)においては、フィールド長の範囲内で、任意の長さのデータを記入することができる。

なお、NCR2018における「属性」は「実体の発見・識別等に必要な特性」のことであり、NACSIS-CATのフィールド定義における「属性」(固定長/可変長)とは異なる概念である。(→「目録情報の基準 第6版」0.1.2)

1.0.1C〔フィールド長〕

フィールド長とは、当該フィールド(及びデータ要素)に記録可能なデータ長の最大値のことである。

固定長のフィールド(及びデータ要素)にデータ記入を行う場合、データ長は必ずフィールド長と一致する。

1.0.1D〔繰り返し数〕

繰り返し数とは、設定可能なフィールドの個数の最大値のことである。

可変長のフィールドは、繰り返し数以下であれば何個でも設定することができる。
固定長のフィールドにおいては、繰り返し数は常に「1」である。

1.0.1E [入力レベル]

それぞれのデータにおいては、フィールド(及びデータ要素)ごとに定められたデータ記入のレベル(入力レベル)に従って、データ記入を行う。(→付録5 データ項目一覧)

入力レベル及びそれに対応する目録担当者の作業内容は、次のとおりである。

1) 自動付与(S : System-supplied)

データ記入は、システムが自動的に行う
目録担当者がデータ記入を行うことはできない

2) NIIのみ(C : NII only)

データ記入は、国立情報学研究所のみが行う
目録担当者は、データ記入を行ってはならない

3) 必須1(M : Mandatory)

目録担当者は、必ずデータ記入を行う

4) 必須2(A : Mandatory if applicable or readily available)

目録担当者は、適用可能な情報、又は容易に入手可能な情報が存在する場合、常にデータ記入を行う

5) 選択(O : Optional)

各参加組織は、目録登録業務方針として、データ記入を行うかどうかの選択を行う
目録担当者は、自参加組織の方針に従って、データ記入を行う(又は行わない)

6) 不使用(U : Unused)

目録担当者は、データ記入を行ってはならない

1.0.1F 《注意事項》

F1

フィールド長及び繰り返し数は、システム設計上の値であり、実際のデータ記入においては、他のフィールドとの関係等によって、制限がより厳しくなることがある。

F2

入力レベル「選択」における選択内容は、参加組織によって異なる。

例えば、情報が容易に入手可能な場合に限ってデータ記入を行う、という選択が考えられる。

1.0.2 データ要素間の区切り記号

1.0.2A 〔区切り記号〕

目録システムにおいては、それぞれの画面フィールドにおけるデータ要素間の区切り記号として、次の13種類の記号を使用する。

- 1) ピリオド …………… .
- 2) コンマ …………… ,
- 3) コロン …………… :
- 4) セミコロン …………… ;
- 5) スラッシュ(斜線) …………… /
- 6) イコール(等号) …………… =
- 7) プラス(正符号) …………… +
- 8) 小括弧(丸括弧) …………… ()
- 9) スペース(空白) …………… △
- 10) ハイフン …………… -
- 11) 不等号 …………… <>
- 12) 中括弧 …………… { }
- 13) ストローク(縦線) …………… |

1)～8)は、ISBD に規定された記号である。

これらの記号は、原則として、ISBD 区切り記号法に準拠して記入する。

ただし、目録システムの独自の運用方針により、ISBD 区切り記号法に従わないことがある。

9)～13)は、目録システム独自の区切り記号である。

1.0.2B 〔データ要素の識別〕

目録システムは、上記の区切り記号によって、それぞれの画面フィールドに記入されたデータを、特定のデータ要素として識別する。

1.0.2C 〔区切り記号の使用法〕

以下では、それぞれの記号毎に、目録システムにおけるデータ要素間の区切り記号としての使用法を示す。

(1) ピリオド、スペース (. △)

洋図書誌データの CW フィールドにおいて、巻次等の直後に、ピリオド、スペースを記入する。

図書更新資料書誌データ、および、雑誌書誌データの TR フィールドにおいて、部編記

号の直前に、ピリオド、スペースを記入する。

(1)' スペース、ピリオド、スペース (△.△)

次のフィールドにおいて、それぞれのデータ要素の直前に、スペース、ピリオド、スペースを記入する。

- 1) TR (図書書誌) …………… 2 番目以降のタイトル
- 1)' TR (図書書誌) …………… 2 番目以降のタイトルのヨミ
- 2) PTBL (図書書誌) …………… 中位の書誌単位のタイトル

ただし、1)及び 1)'は、総合タイトルがなく、個々のタイトルにかかわる責任表示が異なる場合に限る。

(2) コンマ、スペース (, △)

次のフィールドにおいて、それぞれのデータ要素の直前に、コンマ、スペースを記入する。

- 1) ED (書誌) …………… 付加的版次
- 2) TR (図書更新資料書誌、雑誌書誌) …… 部編名

(2)' スペース、コンマ、スペース (△, △)

次のフィールドにおいて、それぞれのデータ要素の直前に、スペース、コンマ、スペースを記入する。

- 1) PUB (書誌) …………… 出版・頒布等の日付

(3) コロン (:)

次のフィールドにおいて、それぞれのデータ要素の直前に、コロンを1つ記入する。

- 1) VT (書誌) …………… タイトル
- 2) OTHN (図書書誌) …………… 番号
- 3) CLS (図書書誌) …………… 分類記号
- 4) SH (書誌) …………… 件名
- 5) BHNT (雑誌書誌) …………… 前後タイトル

(3)' コロン、スペース (:△)

和図書書誌データの CW フィールドにおいて、巻次等の直後に、コロン、スペースを記

入する。

(3)“ スペース、コロン、スペース (△:△)

次のフィールドにおいて、それぞれのデータ要素の直前に、スペース、コロン、スペースを記入する。

- 1) TR (書誌) …………… タイトル関連情報
- 1)' TR (書誌) …………… タイトル関連情報のヨミ
- 2) PUB (書誌) …………… 出版者・頒布者等
- 3) PHYS (書誌) …………… その他の形態的細目
- 4) VT (書誌) …………… タイトル関連情報
- 4)' VT (書誌) …………… タイトル関連情報のヨミ
- 5) VOL (図書書誌) …………… 説明語句
- 6) CW (図書書誌) …………… タイトル関連情報
- 6)' CW (図書書誌) …………… タイトル関連情報のヨミ
- 7) PTBL (図書書誌) …………… 中位の書誌単位のタイトル関連情報
- 7)' PTBL (図書書誌) …………… 中位の書誌単位のタイトル関連情報のヨミ
- 8) VOL (図書所蔵) …………… 説明語句

(4) セミコロン (;)

次のフィールドにおいて、それぞれのデータ要素の直前に、セミコロンを 1 つ記入する。

- 1) PLACE (著者名典拠) …………… 2 番目以降の場所
- 2) DATE (会議名著者名典拠) …………… 2 番目以降の開催年
- 3) HLV (雑誌所蔵) …………… 2 番目以降の所蔵巻号次
- 4) HLYR (雑誌所蔵) …………… 2 番目以降の所蔵年次

(4)' スペース、セミコロン、スペース (△;△)

次のフィールドにおいて、それぞれのデータ要素の直前に、スペース、セミコロン、スペースを記入する。

- 1) TR (書誌) …………… 2 番目以降の責任表示
- 2) ED (書誌) …………… 2 番目以降の責任表示
- 3) PUB (書誌) …………… 2 番目以降の出版地・頒布地等
- 4) PHYS (書誌) …………… 大きさ
- 5) TR (図書書誌) …………… 2 番目以降のタイトル
- 5)' TR (図書書誌) …………… 2 番目以降のタイトルのヨミ

- 6) CW (図書書誌) …………… 2 番目以降のタイトル
- 6)' CW (図書書誌) …………… 2 番目以降のタイトルのヨミ
- 7) CW (図書書誌) …………… 2 番目以降の責任表示
- 8) PTBL (図書書誌) …………… 中位の書誌単位の 2 番目以降の責任表示
- 9) PTBL (図書書誌) …………… 中位の書誌単位の番号等
- 10) VLYR (雑誌書誌) …………… 巻次変更後の巻次・年月次表示

ただし、5)~6)'は、総合タイトルがなく、個々のタイトルにかかわる責任表示が同一の場合に限る。

(5) スペース、スラッシュ、スペース (△ / △)

次のフィールドにおいて、それぞれのデータ要素の直前に、スペース、スラッシュ、スペースを記入する。

- 1) TR (書誌) …………… (最初の)責任表示
- 2) ED (書誌) …………… (最初の)責任表示
- 3) CW (図書書誌) …………… (最初の)責任表示
- 4) PTBL (図書書誌) …………… 中位の書誌単位の(最初の)責任表示

(5)' スラッシュ、スラッシュ (//)

次のフィールドにおいて、それぞれのデータ要素の直前に、スラッシュを 2 つ記入する。

- 1) PTBL (図書書誌) …………… 構造の種類
- 2) SH (書誌) …………… 件名の種類

(6) スペース、イコール、スペース (△ = △)

次のフィールドにおいて、それぞれのデータ要素の直前に、スペース、イコール、スペースを記入する。

- 1) TR (書誌) …………… 並列タイトル
- 1)'TR (書誌) …………… 並列タイトルのヨミ
- 2) ED (書誌) …………… 並列版次
- 3) CW (図書書誌) …………… 並列タイトル
- 3)'CW (図書書誌) …………… 並列タイトルのヨミ
- 4) PTBL (図書書誌) …………… 中位の書誌単位の並列タイトル
- 5) VLYR (雑誌書誌) …………… 別形式の巻次・年月次表示

(6)' スペース、イコール、スペース、スラッシュ、スペース ($\Delta = \Delta / \Delta$)

次のフィールドにおいて、それぞれのデータ要素の直前に、スペース、イコール、スペース、スラッシュ、スペースを記入する。

- 1) TR (書誌) …………… 並列責任表示
- 2) ED (書誌) …………… 版に関する並列責任表示
- 3) CW (図書書誌) …………… 並列責任表示
- 4) PTBL (図書書誌) …………… 中位の書誌単位の並列責任表示

ただし、1)~4)は、責任表示のみが並列する場合に限る。

(7) スペース、プラス、スペース ($\Delta + \Delta$)

書誌データの PHYS フィールドにおいて、付属資料の直前に、スペース、プラス、スペースを記入する。

(8) 丸括弧 (())

次のフィールドにおいて、それぞれのデータ要素を、丸括弧で括る。

- 1) PRICE (書誌) …………… 説明語句
- 2) PUB (書誌) …………… 製作等に関する事項
- 3) HLV (雑誌所蔵) …………… 不完全巻の所蔵号次
- 4) HDNG (著者名典拠) …………… 付記事項

(8)' スペース、丸括弧 ($\Delta ()$)

次のフィールドにおいて、それぞれのデータ要素を、スペース、丸括弧で括る。

- 1) AL (書誌) …………… その他の情報
- 2) VLYR (雑誌書誌) …………… 年月次

ただし、1)は、著者標目が会議名の場合に限る。

(9) スペース (Δ)

書誌データの YEAR フィールドにおいて、刊年 2 の直前に、スペースを 1 つ記入する。

(10) ハイフン (-)

次のフィールドにおいて、それぞれのデータ要素の直前に、ハイフンを 1 つ記入する。

- 1) VLYR (雑誌書誌) …………… 終号の巻次
- 2) DATE (個人名著者名典拠) …………… 没年
- 3) DATE (団体名著者名典拠) …………… 廃止年

(10) スペース、ハイフン、ハイフン、スペース(△ - - △)

書誌データの SH フィールドにおいて、細目の直前に、スペース、ハイフン2つ、スペースを記入する。

(11) スペース、不等号、スペース(△ < > △)

次のフィールドにおいて、それぞれのデータ要素を、スペース、不等号、スペースで括る。

- 1) AL (書誌) …………… リンク先著者名典拠データ ID
- 2) PTBL (図書書誌) …………… リンク先親書誌データ ID
- 3) UTL (図書書誌) …………… リンク先著作典拠データ ID
- 4) SAF (典拠) …………… リンク先典拠データ ID

(12) 中括弧 (△ { △ △ } △)

図書書誌データの PTBL フィールドにおいて、中位の書誌単位のタイトル等の中に「△. △」、又は「△ ; △」が存在する場合、中位の書誌単位のタイトル等の全体を、中括弧で括る。

さらに、始め中括弧、及び終わり中括弧の前後に、スペースを1つずつ記入する。

(13) ストローク、ストローク (| |)

次のフィールドにおいて、それぞれのデータ要素の直前に、ストロークを2つ記入する。

- 1) TR (書誌) …………… タイトルのヨミ
- 2) VT (書誌) …………… タイトルのヨミ
- 3) AL (書誌) …………… 著者の典拠形アクセス・ポイントのヨミ
- 4) SH (書誌) …………… 件名のヨミ
- 5) CW (図書書誌) …………… タイトルのヨミ
- 6) PTBL (図書書誌) …………… 中位の書誌単位のタイトルのヨミ
- 7) UTL (図書書誌) …………… 著作名典拠形アクセス・ポイントのヨミ
- 8) SF (典拠) …………… 名称のヨミ
- 9) SAF (典拠) …………… 名称のヨミ
- 10) HDNG (日本名典拠) …………… 名称のヨミ
- 11) CLN (所蔵) …………… 請求記号

1.0.2D [ISBD 区切り記号法との相違]

ISBD 区切り記号法の規定にかかわらず、次の 3 種類の記号については、データ要素の識別の都合上、目録システム独自の区切り記号法に従ってデータ記入を行う。

項番	目録システム	記号の記入位置	ISBD
(1)'	$\Delta . \Delta$	2 番目以降のタイトル (TR) の直前等 ただし、総合タイトルがなく、個々のタイトルにかかわる責任表示が異なる場合に限る	$. \Delta$
(2)'	Δ , Δ	日付(PUB)の直前	$, \Delta$
(6)'	$\Delta = \Delta / \Delta$	並列責任表示 (TR) の直前等 ただし、責任表示のみが並列する場合に限る	$\Delta = \Delta$

1.0.2E 《注意事項》

E1

目録システムは、前記の区切り記号によって識別されたデータ要素ごとに、検索用インデックスの作成等を行う。したがって、区切り記号の記入は、正しく行う必要がある。

E2

目録システム独自の区切り記号法が存在する場合、対応する ISBD 区切り記号法に従ってデータ記入を行ってはならない。

E3

データ要素の区切り記号の使用法等は、付録 6(入力データ記述文法)において示す。